

令和 7 年度仙台市認知症施策の実績

1 概要

令和 8 年 4 月 1 日現在、本市の住民基本台帳人口は 1,059,546 人、そのうち 65 歳以上人口は 271,986 人（高齢化率 25.67%）である。

「認知症及び軽度認知障害の有病率調査並びに将来推計に関する研究」等をもとに推計すると、本市の認知症高齢者は令和 7 年現在約 3 万 7 千人、軽度認知障害（MCI）高齢者は約 4 万 4 千人となり、今後もその数は増加していくことが予想されている。

令和 6 年 1 月に、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」（以下「認知症基本法」という。）が施行され、基本理念の筆頭に「全ての認知症の人が、基本的人権を享有する個人」であることが明確に掲げられ、人権ベースの取組が方向づけられている。

令和 6 年 12 月には国の「認知症施策推進基本計画」が策定され、共生社会の実現を目指すこと、そして認知症の人本人の声を尊重し、新しい認知症観に基づき施策を推進することが求められている。

仙台市では、（令和 6 年度～令和 8 年度）高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に、この認知症基本法の理念に則った内容を盛り込み、市町村認知症施策推進計画としても位置付けられるよう策定している。

【仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画】（令和 6 年度～令和 8 年度）

仙台市の認知症施策

(1) 市民一人ひとりが認知症への理解を深め、「認知症になっても、ともに希望を持って生きることができる」という新しい認知症観を広げる取組みの推進

① 認知症に対する正しい理解の促進

② 認知症の人と家族の参画と本人発信支援

(2) 認知症の人の生活におけるバリアフリー化と共生社会づくりの推進

① 認知症の人と家族が希望を持って暮らし続けることができる取組みの強化

② 認知症の人が役割を持ち、地域づくりの一員として活躍する機会や場の創出

③ 認知症の人の意思決定の支援及び権利利益の保護

④ 認知症の人の介護家族等への支援の充実

(3) 医療・介護専門職等の多職種連携による認知症への対応力の強化

① 認知症の早期相談・早期診断・早期対応のための支援

② 医療従事者の認知症対応力向上

③ 介護従事者の認知症対応力向上

2 主な仙台市の認知症関連事業

(1) 市民一人ひとりが認知症への理解を深め、「認知症になっても、ともに希望を持って生きることができる」という新しい認知症観を広げる取組みの推進

①認知症に対する正しい理解の促進

1) 認知症サポーターの養成

認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域や職域で認知症の人やその家族を地域で温かく見守り、できる範囲で手助けする認知症サポーターを養成している。

【表 1】<本市における認知症サポーター養成者数推移>

	R03 年度	R04 年度	R05 年度	R06 年度	R07 年度
養成講座開催数	117 回	139 回	152 回	149 回	161 回
養成者数	4,081 人	4,867 人	6,221 人	5,702 人	6,319 人
養成者数(累計)	99,262 人	104,129 人	110,350 人	116,052 人	122,371 人

※目標養成者数(累計)は 120,000 人(令和 7 年度末)の為、目標値達成。

2) キャラバン・メイトの養成

認知症サポーター養成講座の講師役となるキャラバン・メイトを養成している。

【表 2】<本市におけるキャラバン・メイト養成者数推移>

	R03 年度	R04 年度	R05 年度	R06 年度	R07 年度
養成者数	一人	34 人	39 人	31 人	39 人
養成者数(累計)	一人	884 人	923 人	954 人	993 人

※令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

3) 認知症パートナーの養成

認知症の人の思いや希望に耳を傾け、認知症の人の気持ちに寄り添える「パートナー」を養成するための講座を開催している。認知症サポーター養成講座と並列の関係としており、誰でも受講できる。

【全市向け講座(地域包括ケア推進課主催)】

第 1 回 令和 7 年 7 月 15 日(火) 受講者 40 名

第 2 回 令和 7 年 12 月 9 日(火) 受講者 34 名

【表 3】<全市向け講座・認知症パートナー講座受講者数推移>

	R03 年度	R04 年度	R05 年度	R06 年度	R07 年度
第 1 回開催	22 人	30 人	43 人	32 人	40 人
第 2 回開催	中止	33 人	28 人	39 人	34 人
単年計	22 人	63 人	71 人	71 人	74 人
受講者数(累計)	178 人	241 人	312 人	383 人	457 人

【表 4】＜地域開催講座・認知症パートナー講座受講者数推移＞

	R03 年度	R04 年度	R05 年度	R06 年度	R07 年度
講座開催数	8 回	25 回	24 回	6 回	16 回
受講者数	93 人	328 人	401 人	114 人	394 人
受講者数(累計)	362 人	690 人	1,091 人	1,205 人	1,599 人

※平成 30 年度から開始している認知症パートナー講座を、令和 6 年度からはチームオレンジの基本である認知症サポーター・ステップアップ講座として位置付け、チームオレンジについて周知啓発を行うとともに、講座修了者に修了証の交付を開始した。そのため、令和 6 年度より修了証を交付した人数のみを計上している。

※目標受講者数（全市向け講座と地域開催講座の累計）は 1,740 人（令和 7 年度末）の為、目標値達成。

4) 認知症パートナー講座指導者の養成（キャラバン・メイトスキルアップ研修）

認知症パートナー講座の講師となる指導者養成を目的として、地域包括支援センター職員、認知症介護指導者等を対象に開催している。

【日時】 令和 7 年 7 月 29 日（火）

【参加者数】 24 人

5) 認知症パートナー等情報交換会の開催

認知症サポーターとして実際に活動される方の具体的な取り組み事例を紹介し、今後サポーターとして活動するうえでの一助となるよう、平成 30 年度より認知症サポーター情報交換会を開催している。

令和 6 年度より、「認知症パートナー等情報交換会」へと名称を変更し開催。令和 8 年度からは、「仙台版チームオレンジ情報交換会」に名称を変更し開催予定。

【表 5】＜本市における情報交換会参加者数推移＞

	R03 年度	R04 年度	R05 年度	R06 年度	R07 年度
受講者数	一人	26 人	35 人	29 人	29 人
受講者数(累計)	一人	80 人	115 人	144 人	173 人

※令和元年度及び令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

6) 認知症カフェ等の設置推進

認知症の人やその家族が、地域の人や専門職と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置を推進している。

＜本市の取り組み状況＞

平成 27 年度に本市における認知症カフェのあり方を検討し、分類を整理した上で開催情報を一覧にまとめ、市ホームページ上で公開している。

認知症カフェの立ち上げ・継続運営に資する目的で情報交換会等を開催。

ア) 認知症カフェ等設置数

令和 7 年度実績 114 か所

(内訳) 認知症カフェタイプ 92 団体

ご本人中心タイプ 8 団体

家族交流会タイプ 14 団体

※ 目標設置数は令和 8 年度末まで 111 か所を維持のため、目標値達成。令和 7 年度は、新設のカフェもあったが、認知症カフェが「アクティブシニア・ボランティアポイント制度」のポイント付与対象となったことを機にカフェの開催状況の確認を行い、数年前から開催していたカフェなども新たに把握したため、設置数が増加した。

イ) 認知症カフェ企画・運営者会議

令和 7 年度実績 1 回 12 人

ウ) 認知症カフェ・ネットワークミーティング

【日時】 令和 7 年 12 月 18 日 (木)

【参加者数】 61 人

7) 認知症月間（9 月）における認知症の普及啓発

認知症月間において様々なイベントを開催し、認知症への正しい理解を促進する。

ア) 「認知症の人と家族の会宮城県支部」と共催で講演会を開催。「翼合唱団」による合唱と、今田隆一氏及び阿部育実氏の講演を実施。

【日時】 令和 7 年 9 月 28 日 (日)

【参加者数】 233 人

イ) シニアいきいきまつり（仙台市高齢者生きがい健康祭）に認知症啓発ブースを出展し、認知症に関する知識と認知症の人への正しい理解および「新しい認知症観」の普及啓発を実施。

【日時】 令和 7 年 9 月 27 日 (土)

ウ) 認知症の日及び認知症月間を P R する「のぼり」を制作・各地域包括支援センターへ配布し、「のぼり」掲示による普及啓発を図る。また、各地域包括支援センター及び各区・総合支所にて、認知症カフェや介護予防教室の開催時等に認知症の日及び認知症月間の普及啓発を行う。併せて、市政だより及び仙台市ホームページにて周知啓発を行う。

8) 認知症地域支援推進員の配置

認知症の容態の変化に応じた適切なサービスが提供されるよう、医療機関や介護サービス及び地域の支援機関の連携を図るための支援や、認知症の人やその家族を支援する相談業務等を行う。

<本市の取組み状況>

平成 28 年度までに、地域包括支援センター、本庁及び各区役所・総合支所に配置。また、研修等の開催によりスキルアップにつながる支援を実施している。

令和 6 年度からより幅広く認知症の人の声を聞き、施策を推進することを目的とし、

認知症高齢者グループホームへの配置を開始。

令和 7 年度実績 189 人配置（うち、認知症高齢者グループホーム職員 8 人）

9) 地域包括支援センターによる認知症をテーマにした教室の開催

各域包括支援センターで、認知症をテーマにした教室を開催し、市民への認知症の正しい理解を促進している。

令和 7 年度開催実績 144 回

10) 若い世代を含めた幅広い世代に向けた認知症普及啓発

連携協定を締結している福祉系大学の学生が主体となり、シニアいきいきまつり（仙台市高齢者生きがい健康祭）において認知症啓発を目的にブースを出展した。

【日時】令和 7 年 9 月 27 日（土）

11) 認知症ケアパスの作成・普及

認知症の人やその家族、地域住民に対して、認知症の人の生活機能障害に応じた本市の取組みを体系的に分かりやすく示した「認知症ケアパス」を作成・普及している。認知症になっても社会とのつながりの中で生活が続けられること、早めに専門機関に相談することが大切なこと、そして様々な相談窓口があることを伝える。

＜本市の取組み状況＞

認知症を発症した後の容態に応じた医療・介護サービスや相談場所の情報を示す「全市版ケアパス」、診断直後の思いや日々の工夫を収集・整理した「個人版ケアパス」、地域包括支援センターが中心となり認知症に係る様々な地域資源の情報を収集・整理した「地域版ケアパス」の 3 種類を作成している。

令和 2 年度から令和 3 年度にかけて全市版ケアパス見直しワーキングを実施し、令和 4 年 3 月に改訂版の全市版ケアパスを印刷し、配布。その後も毎年内容の見直しと増刷を行っている。

令和 8 年 3 月版は全市版ケアパス別冊を「相談先・認知症カフェ等一覧」としてページ数を増やし、地域包括支援センターや認知症カフェ等の情報の拡充を行った。

12) 軽度認知障害（MCI）について普及・啓発

軽度認知障害（MCI）に関する正しい知識を広く市民に周知するため、介護保険料決定通知書に、MCI および認知症に関するお知らせを同封した（内容：MCI の説明、認知症ケアパス、認知症および MCI の相談窓口）。併せて、全市版認知症ケアパスや仙台市ホームページを通じて、早期に適切な相談先へつながることができるよう周知啓発を行った。さらに、令和 7 年度より、地域包括支援センター、各区・各総合支所および物忘れ電話相談において、MCI に関する相談件数の計上を開始した。

- (1) 市民一人ひとりが認知症への理解を深め、「認知症になっても、ともに希望を持って生きることができる」という新しい認知症観を広げる取組みの推進
②認知症の人と家族の参画と本人発信支援

13) 新しい認知症観を広げるための動画制作

令和 5 年度及び令和 6 年度に制作した動画の普及啓発のチラシ及びポスターを地域包括支援センター、区・総合支所、認知症疾患医療センター、市内病院・クリニック、市民センター等へ配付、掲示を依頼した。また、地域包括支援センター、区・総合支所、健康福祉事業団介護研修室等に動画の DVD を配付し、包括圏域会議、介護予防教室、認知症サポーター養成講座等で活用いただいた。併せて、認知症に関連するイベント、市政出前講座、研修等の機会を活用して動画を周知した。

また、令和 6 年度に制作した活躍する認知症のご本人等からのメッセージ動画のショートバージョン（15 秒）を作成し、各区および宮城総合支所の戸籍住民課デジタルサイネージに令和 8 年 1 月の 1 か月間掲載した。

【活躍する認知症のご本人等からのメッセージ動画（ロングインタビュー版）】



14) ピアサポート活動支援事業の実施及びピアサポーターの役割の創出

今後の生活の見通しなどに不安を抱えている認知症の人に対し、認知症当事者によるピアサポート活動を実施し、精神的な負担の軽減を図る。

＜本市の取組み状況＞

令和元年度より、認知症カフェに講師等として認知症の人と認知症パートナーを派遣している。認知症当事者がピアサポーターとして相談対応するとともに、認知症の人の役割の創出と発信の機会にもなっている。

令和 7 年度派遣実績 認知症カフェ等 15 か所

15) 認知症の人の意思決定を後押しする「希望をかなえるヘルプカード」の普及・活用促進

認知症の人等が、自分が望んでいること・やりたいこと等を安心してスムーズにできるために使う「希望をかなえるヘルプカード」の普及・活用促進を行う。

＜本市の取組み状況＞

令和 6 年度に仙台市版「希望をかなえるヘルプカード」を作成した。各地域包括支援センター及び各区役所・総合支所にカード及びチラシを配置。また、医療福祉関係者、民生委員児童委員、交通従事者や警察、商業施設等へ関係機関と連携しながら周知。

16) 認知症の本人・家族・地域の方の声を聴くシートの作成および検討

令和6年度より「認知症の本人・家族・地域の方の声を聴くシート」を活用し、認知症の人等の何気ないつぶやきや想い、希望等の「声」を聴き、そこから得た気づき等を記録、蓄積している。

シートの作成は、地域包括支援センター、各区役所・総合支所、認知症高齢者グループホームに配置している認知症地域支援推進員等が行っている。令和6年度約1,300件、令和7年度約1,000件の声を集約。令和8年度も集約を継続していく。

認知症バリアを把握するとともに、その解消に向けた取り組みを推進することを目的に、認知症の人、家族、作業療法士、学生ボランティア、地域包括支援センター職員、区役所職員等で「認知症バリア解消に向けたワーキング」を年2回実施した。

第1回ワーキング（令和7年8月開催）では、声を聴くシートで収集した約1,300件の声から、気になる声82件をピックアップし、①新しい認知症観を広げる「カギ」と②認知症バリアの2つに分類し、解消に向けたアイデアを出し合った。第2回ワーキング（令和7年10月開催）では、さらに認知症バリア解消に向けたアイデアを出し合った。バリア解消に向けて、①すぐに取り組めるもの（取り組んでいるもの）②既存事業の工夫や改善、周知の強化が必要なもの③新たな取り組みが必要なものに整理し、可能なものから実現に向けて進めていく。

17) 市民向け映画「オレンジ・ランプ」上映会

新しい認知症観を広げるとともに、認知症当事者の視点から誰もがよりよく生きられる共生社会づくりを考える機会とするため、仙台市認知症対策推進会議委員である丹野氏の実話をモデルとした映画「オレンジ・ランプ」上映会及び認知症当事者等によるアフタートークを市民向けに実施した。

【日時】 令和8年1月23日（金）

【参加者数】 131人

(2) 認知症の人の生活におけるバリアフリー化と共生社会づくりの推進

①認知症の人と家族が希望を持って暮らし続けることができる取り組みの強化

18) 仙台版チームオレンジの設置

認知症の人と家族のやりたいことや困り事に対して、認知症サポーター及び認知症パートナー等が、認知症の人や家族とともに活動し、地域で支え合いながら、認知症の人と家族の想いを叶える活動の実現につなげる仕組み。認知症の人、家族、オレンジチューター、地域包括支援センター職員、区役所職員等が参加したワーキングを年2回実施し、仙台版チームオレンジの理念や定義などを検討した（令和7年6月及び8月開催）。令和7年9月には、活動する地域全体へ「新しい認知症観」を広め、「認知症とともに笑顔で生きる仙台」をつくることを目的とし、「仙台版チームオレンジ設置要領」を策定。令和7年11月27日仙台版チームオレンジ登録証交付式にて4団体に登録証を交付し、仙台版チームオレンジが発足した。

【登録団体数】 5団体

【登録人数】 60名

【認知症の人の参加者数（内数）】 8名

【認知症の人の家族の参加者数（内数）】 9名

19) 生活の工夫講座モデル事業

生活の工夫に興味のある認知症・軽度認知障害（MCI）の当事者およびその家族を対象とし、認知症の当事者と作業療法士等の専門職が講師となって、生活の中での工夫や、認知症とともに生きていく上での心構えなどを学ぶ講座のモデル事業を実施。

認知症の当事者2名、認知症の当事者の家族1名、作業療法士が講師となり、講師が実際に行っている生活の工夫紹介とグループワークを行った。

【日時】 令和7年12月1日（月）

【参加者数】 認知症及び軽度認知障害（MCI）の当事者とその家族 6組10名

また、ワーキングを年2回実施し、第1回ワーキング（令和7年7月開催）では、講座内容や周知方法等を検討。第2回ワーキング（令和7年12月開催）では、講座のアンケート結果等を確認し、講座の改善点等について検討を行った。

20) 認知症の人が安心して買い物ができる体制づくり

商業施設等事業者を対象に、スローショッピングの第一人者である紺野敏昭氏、認知症の人と家族、ゆっくりレジ（スローレジ）を実施しているみやぎ生協担当者を講師として「スローショッピング・ゆっくりレジ研修会」を開催。

【日時】 令和7年10月17日（金）

【参加者数】 19名（6社）

また、南中山地域包括支援センター主催で、ヨークベニマル南中山店にてスローショッピングを開催。

【日時】 令和7年11月18日（火）

スローショッピング及びゆっくりレジ（スローレジ）の拡充に向けて、認知症の人、

家族、認知症対策推進会議委員の福井大輔氏、学生ボランティア、地域包括支援センター職員、区役所職員等でワーキングを2回実施（令和7年7月及び12月開催）。研修会の内容や、スローショッピング実施にむけて検討を行った。また、商業施設等事業者に対するヒアリング及び意見交換を行い、認知症の人にとっての買い物の意義や買い物時に生じる認知症バリアを伝えるとともに、仙台市の認知症施策を説明し、理解促進を図った。

21) 認知症の人と家族への一体的支援の実施

認知症の人を含む家族をひとつの単位とした支援を行い、他の家族との出会いによる自然な学びを得て、本人の意欲の向上、家族の精神的負担軽減、家族関係の再構築や良好な家族関係の維持調整に役立てるため、認知症の人と家族への一体的支援プログラムを実施。

令和6年度のモデル事業を経て、令和7年度は、本格実施として、「認知症の人と家族の会宮城県支部」運営支援のもと、「小規模多機能型居宅介護事業所マイムケア」（長町地区・河原町地区）、認知症疾患医療センター「せんだんホスピタル」及び「いずみの杜診療所」の計4か所で一体的支援プログラムを実施。

【プログラム実施拠点数】 4か所（業務委託）

【開催回数（拠点4か所合計）】 年26回

【参加者数（拠点4か所合計）】 24組49名

また、高知県立大学 矢吹知之教授、プログラム実施者、運営支援者、認知症介護研究・研修仙台センター、地域包括支援センター職員等で「一体的支援プログラムを広げていくためのワーキング」を年2回実施し、実施状況の共有、評価指標の結果等の確認及び検討を行った（令和7年10月及び令和8年3月開催）。

22) 認知症の人の見守りネットワーク構築

認知症の人が行方不明となった場合に、24時間365日間家族等からの電話を受け付け、協力者に電子メールを配信し協力を依頼することで、早期発見・保護の一助とする取組みを行っている。平成30年3月から運用を開始し、登録者・協力者については、地域での認知症サポーター養成講座や各種研修等の中で周知を図っている。引き続き登録者・協力者の増やすための施策を実施していく。

【見守りネットワーク登録者数等】 令和8年3月末現在

登録者数 371人、協力者数 1,485人

【搜索協力依頼メール配信数】 令和8年3月末現在

配信数 87件 うち発見数 72件（死亡で発見3件含む）

23) 介護サービス基盤の整備

認知症の人が、小規模多機能型居宅介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護などの訪問・通所系サービス、認知症対応型共同生活介護や特定施設入居者生活介護などの居宅サービス等を利用し、様々な形で介護サービスと関わりながら生活していくに当たっ

て、多様な介護サービス基盤の整備を進めていく。

＜本市の取組み状況＞

仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（令和6年度～令和8年度）に基づき、介護サービス基盤の整備を推進。

【表6】

	R 6～R 8年度 整備目標数	R 7年度末時点 選定数
特別養護老人ホーム	230 人分	67 人分
介護老人保健施設	0 人分	0 人分
認知症高齢者グループホーム	162 人分	37 人分
小規模多機能型居宅介護 及び看護小規模多機能型 居宅介護	11 事業所	7 事業所
特定施設入居者生活介護	300 人分	228 人分

(2) 認知症の人の生活におけるバリアフリー化と共生社会づくりの推進

②認知症の人の介護家族等への支援の充実

24) 認知症電話相談の実施

「認知症の人と家族の会宮城県支部」に委託し認知症介護家族の相談業務を実施している。

【表7】＜令和7年度実績 ※若年性認知症件数を下段（ ）に記載＞

区	青葉区	宮城野区	若林区	太白区	泉区	不明	合計
件数	56 (1)	9 (0)	20 (4)	25 (2)	46 (0)	110 (2)	266 (9)

25) 認知症の介護講座と相談会

「認知症の人と家族の会宮城県支部」と共催で、介護講座や相談会を開催している。

【表8】＜令和7年度実績＞

区	回数	参加者数
青葉区	2 回	5 人
宮城野区	2 回	8 人
若林区	2 回	14 人
太白区	2 回	12 人
泉区	2 回	16 人
計	10 回	55 人

26) 各区主催 認知症の方の家族交流会

各区役所において、認知症介護に携わっている家族等を対象に交流会を行っている。

【表9】＜令和7年度実績＞

区	開催回数	参加者数
青葉区	6回	31人
宮城野区	7回	54人
若林区	3回	28人
太白区	5回	18人
泉区	8回	57人
合計	29回	188人

27) 民間商業施設等の場で気軽に相談できる相談会等の実施

各地域包括支援センターが、銀行や郵便局、商業施設等で気軽に相談できる相談会等を実施。

令和7年度実績 32か所の地域包括支援センターにて、221回実施

28) 認知症の人に対応する個人賠償責任保険について

個人賠償責任保険の中には、認知症の人が日常生活における偶発な事故により、ご本人やご家族が法律上の賠償責任を負う場合に補償する商品もあり、市民へ情報提供することを目的として仙台市ホームページに認知症個人賠償責任保険の一覧を掲載。

(3) 医療・介護専門職等の多職種連携による認知症への対応力の強化

① 認知症の早期相談・早期診断・早期対応のための支援

29) 認知症初期集中支援チームの設置

早期に認知症の鑑別診断が行われ、速やかに適切な医療・介護等が受け入れられる初期の対応体制が構築されるよう、複数の専門職による認知症初期集中支援チームを設置し、認知症が疑われる人又は認知症の人やその家族を訪問し、観察・評価を行った上で家族支援などの初期の支援を包括的・集中的に行う。

【表10】＜本市の取組み状況＞

	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度
相談件数（実数）	56件	51件	51件	45件	32件
うち訪問件数（実数）	35件	40件	34件	24件	20件

平成25年度に認知症初期集中支援チーム設置促進モデル事業を実施し、3か所の地域包括支援センターエリア（国見、小松島、向陽台）を対象に1チームを設置。平成27年度は青葉区、宮城野区、泉区の3区32か所の地域包括支援センターエリアに増やし、2チームで実施。平成28年度より全市を対象とし4チームを構成、令和4年度より各区にチームを配置し、計6チームとしている。

30) 認知症疾患医療センターの整備および診断後支援の強化

認知症疾患に関する鑑別診断とその初期対応、専門医療相談等を実施するとともに、地域保健医療・介護関係者への研修等を行う認知症疾患医療センターを指定している。

【表 11】＜本市が指定している認知症疾患医療センター一覧＞

医療機関名	所在地	指定日
いずみの杜診療所	泉区松森字下町 8-1	平成 26 年 9 月 1 日
仙台西多賀病院	太白区鉤取本町 2-11-11	平成 27 年 9 月 1 日
東北医科薬科大学病院	宮城野区福室 1-12-1	平成 28 年 8 月 1 日
東北福祉大学せんだんホスピタル	青葉区国見ヶ丘 6-65-8	平成 28 年 8 月 1 日

診断後支援の強化に係る取り組みとして、おれんじドアと認知症疾患医療センターの意見交換会を開催。

【日時】 令和 8 年 2 月 26 日（木）

【参加者数】 13 人（仙台市職員を除く）

31) 仙台市認知症対策推進会議

本市における認知症に関する課題、認知症に関する施策の進行管理及び評価や関係機関の取組状況に関し、関係機関において協議、情報交換等を行うために設置している。委員は、医療・福祉・保健・相談機関等のほか、認知症の当事者と介護家族をもって構成され、会議の開催状況、内容等については仙台市ホームページで公開している。

(3) 医療・介護専門職等の多職種連携による認知症への対応力の強化

②医療従事者の認知症対応力向上

32) 認知症サポート医の養成

かかりつけ医の認知症対応力を向上させるための研修講師や、かかりつけ医の認知症診断等に関する相談役等の役割を担う認知症サポート医の養成を進めている。

認知症サポート医は、認知症疾患医療センター、仙台市医師会等とともに企画会議に参加し、地域医療体制についての意見交換、課題の共有、研修内容の検討等を行う役割も担っている。

【表 12】＜本市における認知症サポート医の養成者数推移＞

	R03 年度	R04 年度	R05 年度	R06 年度	R07 年度
養成者数	3 人	4 人	6 人	7 人	4 人
養成者数（累計）	66 人	70 人	76 人	83 人	87 人

認知症サポート医及びかかりつけ医認知症対応力向上研修修了者の情報は仙台市ホームページに掲載。

33) 認知症対応力向上研修の実施

高齢者が日頃より受診する医療機関等に対し、適切な認知症診療の知識・技術や認知症の人やその家族を支える知識と方法を習得するための研修等を実施。

＜本市の取組み状況＞

ア) 病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修

【日時】令和8年1月26日（月）

【修了者】東北医科薬科大学若林病院に勤務する医師、看護師等 67人

イ) かかりつけ医認知症対応力向上研修

【日時】第1回 令和8年1月19日（月）※本市独自研修

第2回 令和8年1月31日（土）※厚生労働省実施要綱に基づく研修

【修了者】第1回 医師 64人

第2回 医師 70人

ウ) 歯科医師認知症対応力向上研修

【日時】令和7年11月6日（木）、12月4日（木）

【修了者】歯科医師 18人

エ) 歯科医師認知症対応力向上フォローアップ研修

【日時】令和8年2月27日（金）

【修了者】歯科医師 11人

オ) 薬剤師認知症対応力向上研修

【日時】令和7年12月4日（木）、12月11日（木）

【修了者】薬剤師 44人

カ) 看護職員認知症対応力向上研修

【日時】第1回 令和7年8月4日（月）、8月5日（火）

第2回 令和7年8月18日（月）、8月19日（火）

第3回 令和7年8月25日（月）、8月26日（火）

※オンデマンド研修6時間及び集合研修2日間

【修了者】看護師 121人

認知症対応力向上研修修了者等の情報は仙台市ホームページに掲載

(3) 医療・介護専門職等の多職種連携による認知症への対応力の強化

③介護従事者の認知症対応力向上

34) 認知症介護実践研修等の実施

認知症介護実務者及びその指導的立場にある者に対し、認知症高齢者の介護に関する基礎的及び実践的な研修を実施。

【表 13】＜本市の取組み状況＞

研修名	内容	R7 年度受講者数
認知症介護指導者養成研修	現場経験おおむね 10 年以上の者が研修の企画立案・講師役等となるための研修	2 人 (R7 末累計 47 人)
認知症介護指導者 フォローアップ研修	認知症介護指導者養成研修修了後 1 年以上を経ている者向けの研修	1 人 (本市から推薦した者が受講)
認知症介護基礎研修 (e ラーニング)	新任の介護職員等が認知症介護に最低限必要な知識・技能を修得できる研修	443 人 (R8.3.31 時点)
認知症介護実践者研修	現場経験おおむね 2 年以上の者が認知症介護の理念、知識及び技術を修得するための研修	165 人 (年 4 回実施)
認知症介護実践 リーダー研修	現場経験おおむね 5 年以上の者が事業所内のケアチームの指導者となるための研修	50 人 (年 1 回実施)
認知症対応型サービス事業 開設者研修	指定小規模多機能型居宅介護事業所又は指定認知症対応型共同生活介護事業所の代表者に対する研修	3 人 (年 1 回実施)
認知症対応型サービス事業 管理者研修	指定認知症対応型通所介護事業所等の管理者又は管理者になる予定の者に対する研修	50 人 (年 2 回実施)
小規模多機能型サービス等 計画作成担当者研修	小規模多機能型居宅介護事業所の計画作成担当者又は予定の者に対する研修	17 人 (年 2 回実施)